

## 【研究論文】

# 2005年度「総合科目A」(「女性が自分らしく生きるために」)から見えるもの

林 陽 子  
梅 下 弘 樹  
加 藤 佳 子  
岩 淵 剛

**要 旨** 開設10年目を迎えた「総合科目『女性が自分らしく生きるために』(一般教養科目)の受講前および受講後アンケートの結果や授業レポートなどを考察したところ、自分らしい生き方、結婚、職業、将来への不安、女であること、ニート、共生等々に関しての意識の実態が明らかになった。また、本授業の満足度、分かり易さ、興味関心についてもある程度高い評価をしていることが分かった。さらに、本授業は現在の自分に影響を与えたと感じており、自分の将来を考える手がかりになったと感じていることが明らかになった。

また、本授業の全体的満足度が、現在の自分への影響度、自分の将来への影響度、今後の学びへの影響度を左右することが分かった。

これらの結果から、若い女性の自分らしい生き方を考えることを狙いとする本授業の目的は一定程度達成されたと言える。

## I はじめに

### 1. 本報告のねらい

「総合科目『女性が自分らしく生きるために』」が岡崎女子短期大学幼児教育学科に開設されたのは、1995年であった<sup>(注1)</sup>。今から10年前のことである。

本来なら、この10年間の実践を振り返り、改めて「総合科目A」の意義と課題について考察すべきである。しかし、当初の担当者6名のうち3名が異動及び病死で担当できなくなり、また新任教員を含む4名による新しい担当体制に慣れるための時間の必要もあり、授業内容・方法についての教授学的調査・研究・考察は、中断せざるを得なかった<sup>(注2)</sup>。

この間、受講学生を対象にした「受講前アンケート」「受講後アンケート」は、毎年欠かさずとってきた。そして2005年度に、担当者4名でこの教科のテキストを改訂し、新たな体制で授業に臨んだ。

ところで、新体制に移行して5年経過した今年度ではあるが、さしあたり今回は、2005年度「総合科目A」の受講前・受講後アンケート結果の分析、授業レポートなどの分析を通して、担当者の共同作業

としてこの授業の内容・方法の現状と課題を探ってみたいと思う。今後のより進んだ分析・考察・授業改善のために。

### 2. 授業の概要

授業は、表1のスケジュールにしたがって行われた。この授業は、1年前期に開設された講義科目であり、教養の選択科目に区分されている。

学生は、この教科を入学直後の「教務オリエンテーション」(履修法の説明)を受けただけで選択するのであるが、複数担当教員による授業というものめずらしさもあってか、非常に多い。したがって、250名入る階段教室を使って授業せざるを得ない。

授業は、4名の担当教員による、各3回続きのオムニバス形式で行われた。

### 3. 「受講前アンケート」「受講後アンケート」のねらいと構成

#### (1) 受講前アンケート

受講前の学生の、講義内容に関わる意識状況を

【表 I】 2005年度「総合科目 A」担当者とスケジュール

回	月 日	担 当 者	内 容	備 考
1	4/19	全 員 林 陽子	担当者紹介、入口アンケート 第1章「らしさ」って何だろう？	
2	4/26	林 陽子	第1章	
3	5/10	林 陽子	第1章	レポート課題提示
4	5/17	梅下 弘樹	第2章 「自分らしさ」を探る －「自分らしさ」のために心理学ができること	レポート回収
5	5/24	梅下 弘樹	第2章	
6	5/31	梅下 弘樹	第2章	レポート課題提示
7	6/7	加藤 佳子	第3章 多様化するライフスタイルと 「女性の自立」「男性の自立」	レポート回収
8	6/14	加藤 佳子	第3章	
9	6/21	加藤 佳子	第3章	レポート課題提示
10	6/28	岩淵 剛	第4章「共生」を生きる	レポート回収
11	7/5	岩淵 剛	第4章	
12	9/6	岩淵 剛	第4章	レポート課題提示
13	9/13	全 員	まとめ（学生の意見交換）出口アンケート	レポート回収

\*使用テキスト：林陽子、梅下弘樹、加藤佳子、岩淵剛『現代に生きる女性－自分らしさを探すたびに出よう－第2版』愛智書房、2005

把握することをねらいとした。

したがって設問は、「学び」「自分らしさ」「結婚」「共生」といった各担当者のテーマに直接的に関係するものと、それにやや間接的に関連はしているが現代的テーマ（将来への不安、ニーズ）とから構成した。

## (2) 受講後アンケート

このアンケートは、受講後の学生の意識状況、とりわけこの教科を受講した学生の意識に何らかの変化がおきたのかどうか、おきたとしたらそれはどんな変化なのか、その変化は肯定的に評価できるものなのかそれともそうではないのかなどを知ることをねらいにした。

そのため設問は、全体的満足度、全体的な内容の分かりやすさ、関心度、現在の自分への影響度、自分の将来への影響度、今後の学びへの影響度をたずねるものなどから構成した。

以下順に、「受講前アンケート」・「受講後アンケート」・クロス集計結果を分析し、考察を試みる。

## II 受講前アンケートにみる受講学生の現状

以下は2005年度総合科目 A（以下本科目）の受講前アンケート（回答数223人：100.0%）の結果に基づく考察である。

### 1. 入学動機

「資格を取得したいから」が72.2%と最も多く、第2位「学生生活を楽しみたいから」（8.5%）、第3位「自分の可能性を伸ばしたいから」（4.9%）を大きく引き離している。資格志向の強さが分かる。

「学歴をつけたいから」が0というのはなぜか。もはや短大は学歴といえないということであろうか。「高校卒業後すぐには就職しなくなかったから」も0。「モラトリアム」というのは本学短大生には該当しないのか。この数字もやはり、上の「資格志向」の強さを物語っているとも言えよう。

自由記述では、「就職率が良い」「保育士になりたい、そのために保育で有名な本学に入学した」が多い。

### 2. 「学ぶことの意味」について

「自分の知識を増やすためにやるものだと思う」が圧倒的に多い（83.9%）。第2位の「分かることが面白いからやるものだと思う」が第1位のおよそ8分の1（10.3%、23人）である。非常に少ないといえるが、「一つだけ選んだ結果としては」意外に多いとも考えられよう。

「自分を理解し、同時に他者を理解するため」との自由記述もある。

### 3. 「自分らしく生きている」と思うか

肯定する学生（「とても（どちらかといえば）そ

う思う) 55.6%、否定する学生(「とても(どちらかといえば) そう思えない) 22.8%と肯定する学生が否定する学生の倍以上である。「分からない」学生も否定する学生とほぼ同数である(21.5%)。

肯定する学生が、否定する学生と「分からない」とする学生との合計より多いのは、いちおう喜ばしいことであろうが、何をもって「自分らしく生きている」と思うのかの内実はどうなのであろう。

#### 4. 「自分の将来について不安を感じる」ことがあるか

「よく(時々)感じる」(合わせて84.7%)と「あまり(まったく)感じない」(同、13.9%)との比率はおおよそ85:15である。8割以上の学生が将来について不安を感じている。不安の内容はなんであろう。新しく始まる学生生活への不安や、選択した「保育者への道」に対する不安等であろうか。あるいはこの年代の青年が誰しも抱いている発達段階特有の不安でもあろう。

「よく感じる」学生が15%と、「あまり(まったく)感じない」を合わせた学生より多いのも気になる。

「分からない」とした学生は2名(0.9%)で他の質問項目に比べて圧倒的に少ない。それだけ自分の内なる不安について意識しているということであろう。

#### 5. 「結婚」についてどう考えるか

「結婚したほうがよい」と考える学生が66.8%おり、「独り立ちできればあえて結婚しなくてもよい」と考える学生、「分からない」「その他」がそれぞれおおよそ10%いる。

「結婚したほうがよい」の理由としては、「なんといっても女性の幸福は結婚にあるのだから」「精神的にも経済的にも安定するから」がほぼ同数のおおよそ33%を示し、「人間である以上、当然のこと」と考える学生は1.3%(3人)である。

「なんといっても女性の幸福は結婚にあるから」と考える学生が33%もいるということはどう理解したらよいであろうか。自分たちの両親の生活実態から得られた実感であるのか、あるいは、両親から(特に、母親から)そのように言い聞かされてきたのかもしれない。結婚と幸福とをストレートに肯定的に結び付けている結果であろうか。受講後にこの割合がどう変わるかを見るのも興味深い(ちなみに、10年前の本科目受講生について同様な考察をした「初年度報告」(1995年度本学紀要)では、受講後にこの

選択肢を選んだ学生は受講前より「3割減った」とある。また、「独り立ちできればあえて結婚する必要がない」を選んだ学生が「2割増えた」とある)。

この項目について過去2年間を比較すると、「なんといっても…」は2003年度34.0%、2004年度34.8%と、本年とほとんど変わらないが、「独り立ちできれば…」は2003年度は本年より2.8%少なく8.0%であったが、2004年度には14.9%とおおよそ7%増え、本年と比較しても約4%多い。「精神的にも経済的にも安定するから」は本年が一番多く(32.3%)、2004年度が一番少ない(25.3%。2003年度は29.7%)。

自由記述にある「(選択肢が)ネガティブな選択しかないのは変です」との意見は一考に値する。その理由として、『「幸福追求のために」結婚するのであって、選択肢(1)の『なんといっても女性の幸福は結婚にあるから』とは違う』としている。選択肢についても検討の余地があろう。

#### 6. 「職業」についてどう考えるか

「子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持ちたい」が圧倒的に多く70.0%に達する。第2位は「子どもができてみずと職業を続けたい」の20.2%である。

過去2年間を比較すると、「職業中断・(子どもが大きくなったら)再開型」は2003年度57.1%、2004年度55.7%であった。「職業継続型」は2003年度31.6%、2004年度は33.5%であった。本年は「職業継続型」が過去2年間より10%以上減少し、その分、「職業中断・再開型」が増加した。「結婚」について、「精神的にも経済的にも安定するから結婚したほうがよい」とした者が3年間で本年が一番多いのと関係があるのではないだろうか(すなわち、子どもが小さい間は自分が仕事をやめ、育児・家事に専念し、夫には仕事に専念してもらうことが、精神的・経済的に安定した結婚生活と考えている)。

#### 7. 「女であること」の不利・有利

「とても(多少)不利」と思う学生が合わせて35.9%いる。逆に「多少は(とても)有利」と思う学生が合わせて23.7%いる。「どちらでもない」とする学生が34.1%と全体の3分の1である。

自由記述ではこの項目に応えたものが皆無である。具体的に記述しにくく、感情的なものなのであろうか。したがって、どのようなことを「不利」と思い、どのようなことを「有利」と思うのかの内実は不明である。アンケートがあまりに細かすぎると

回答率が下がるという懸念はあるが、今後はそれぞれの具体的内容も問う必要があるのではないであろうか。ちなみに、2003年度、2004年度では、「『不利』と感じたことがあるか」についてのみの質問項目であったが、「多く（ときどき）あった」が合わせて2003年度67.0%、2004年度60.6%であった。「有利」について質問していないため単純には比較できないが、「女であるゆえの不利」が少なくなってきたのかもしれない。

#### 8. 「ニート」についてどう思うか

「気持ちは理解できるが、好ましいこととは思わない」が49.3%とおおよそ半数を占める。続いて、そのおおよそ半数に相当する学生が「どうしてそうなるのか理解できないし、自分はそうなりたくない」としている（24.2%）。「そのような人は家庭や社会に甘えているのだと思う」（19.7%）も含めるとニートに否定的な考えを持つ学生が93.2%と大部分である。

他方、「気持ちは理解できるし、自分もそうなるかもしれないと思うことがある」は3.1%（7人）いる。

少数ではあるが、ニートに対する共感、また自分もそうなるかもしれないという不安を持った学生がいることは特筆すべきであろう。しかし、ニートについてその原因や背景（親子関係、経済・社会構造等）などを十分に理解したならば、「自分もそうなる」可能性を認識する学生はもっと増えるかも知れない。ニートを特別な怠け者とのみ捉え、個人の責任にのみ帰しているのではないかと懸念される。

「何も思わない」が5人（2.2%）いるのはどう解釈したらよいのだろうか。自分には無関係とと思っているのか、こういう問題に無関心なのか、むしろこの方が一番気になる場所である。

#### 9. 「共生」について知っているか

「自然と人間の共生」については半数以上（51.1%）が「知っている」と応えている。次に多いのは「男性と女性の共生」（35.0%）、次いで「障害児者と健常者の共生」が続く（30.9%）（知っているものすべて選択）。

「（意味が）よく分からない」と応えた学生が25.1%いるのは予想外の多さである。バリアフリーなどのことばは日常的に使われているし、環境問題や南北問題等もマスコミではとりあげられているが、「共生」の意味が分からないということは、このようなことに全く関心がないということであろう

か。ちなみに過去2年間では、「分からない」とした学生は、2003年度15.1%、2004年度27.6%であった。

#### 10. 「総合科目A」を選択した理由

「単位数確保のため」が最も多く61.0%を占める。問い1の大学に入学した動機の第1位が「資格を取得したいから」であるのとパラレルな関係にある。すなわち、「資格を取りたいから」入学し、保育士資格に必要な「単位数確保のため」に本科目を選択したわけである。換言すれば、『総合科目A』の内容や授業形態に魅力を感じて積極的に選んだわけではない学生が半数以上であるといえよう（11箇の選択肢の中から3つ選択）。

次いで、「『授業内容』を読んで興味を感じたから」と「テーマ『女性が自分らしく生きるために』に興味を感じたから」がほぼ同率で並ぶ（46.2%と45.7%）。「高校まででない科目だったから」と回答した学生も28.7%いる。

「先輩の話聞いて」を選んだ学生が6人（2.7%）いるのはうれしい。これらを回答した学生たちが受講後、どのような感想を抱いたかが注目される。

「複数の先生が担当する授業に興味を感じたから」を選んだ学生は14人（6.3%）であった。

#### 11. この授業に期待すること（自由記述）

「少しでも『自分』を知ることができたらなあと思う」「テーマについて悩んで悩んで自分なりの考えや答えを見つけたらいいです」「この授業から“私らしさ”を発見して、これからの生活に生かしたいです」等々、「『自分』を知りたい」「『自分らしさ』を発見したい」という期待を示したものが多

い。過去2年と比べてもこの点はほとんど変わりが無いが、この質問について記述をした学生数は本年度は若干少いようである。

2003年度には特徴的な記述として、「女子大だからこそできる授業だと思うので、自分らしく生きるため私たちのできることは何か、たくさん教えてほしい」「すばらしい女性になるためにこの科目を頑張りたいので、よろしくお祈りします」「女性であることについて深く考えたことがないので、この授業で何か得られたらなあと思います」「女をみがいてほしい（みがきたい）」というものがある。2004年度では、「もっと自分を好きになれるようにしてほしい」「今この世の中を生きていくために女性がしなければならないことを教えてほしい」「いい女になりたいで

す」「自分自身を見つめなおす良い機会になれば、と思います」等々の記述がみられる。

これらの自由記述を見ると、2003年度は非常に大きな期待を本科目に抱いており、それが2004年、2005年と少しずつ減少してきているようにも思われる。

2003年度に見られる「女をみがきたい」という意味、なぜこのような期待をこの授業に持ったのか、あるいは、「すばらしい女性になるためにがんばる」の「すばらしい女性」とはどのような女性をいうのか等々、明らかではない。できれば議論したいところである。

本年度の記述にはこのようなものはみられなかった。これをどう理解したらよいのであろう。受講後のアンケート結果と合わせて考察したい。

### Ⅲ 受講後アンケートにみる受講学生の実態

以下は2005年度総合科目A（以下本科目とする）の受講後アンケート（回答数219人：100.0%）の結果に基づく考察である。

#### 1. 「総合科目A」を選択した理由

「単位数を満たすため」という理由が55.3%と最も多く、その次が「テーマに興味・関心があったから」の21.9%であった。また「なんとなく」という回答が13.7%、「友人が選択したから」という理由が6.4%となっている。「1つのテーマに沿って複数の教員が解説するから」という本科目の特色を最も反映している項目については1.4%に過ぎなかった。「総合科目Aを選択した理由」に関する質問は受講前アンケートの項目にもあったが、受講前アンケートでは「単位数を満たすため」という回答は61.0%であった。受講前後において若干の差があるが、シラバス等を利用し意識的に本科目を履修する学生、あるいは本科目の目的、内容、特色を理解した上で履修する学生数よりもそうでない学生数がかなりの数を占めていることが伺われる。

#### 2. この授業への出席状況

「すべて出席」と回答した学生が77.6%と最も多く、「1～2回欠席」の17.8%がそれに続いており、合わせて95.4%となる。また3～5回以上欠席したと回答した学生は4.6%である。この結果から学生の出席率は非常に高いと言えるだろう。こうした学生の出席率の高さは、彼らの主体的な授業への参加意

欲の現れなのだろうか。それとも本科目だけでなく、本学では毎回授業の出席確認が実施されており、出席回数が定期試験の受験資格に関わることを学生がよく認識している結果の現れなのであろうか。

#### 3. 全体的にみてどの程度満足しているか（満足度）

「どちらともいえない」と回答した学生が47.0%で最も多く半数近い。以下「やや満足」が39.3%、「やや不満」が9.1%、「非常に満足」が3.2%、「非常に不満」が1.4%という結果となっている。

「どちらともいえない」という回答者群の内省は非常に興味深い問題である。しかし「非常に満足」と「やや満足」を合計が42.5%であるのに対して「やや不満」と「非常に不満」の合計は10.5%であり、このバランスから考えると、本科目に対する全体的満足度は高いと言えるのではないだろうか。しかし本科目を受講した学生が「満足度」という言葉をどのような質・内容で理解しているのかという問題は考察してみる必要があるだろう。

#### 4. 授業の内容は分かり易いものだったか（内容の分かり易さ）

「どちらともいえない」が43.8%で最も多かったものの、「まあまあ分かり易い」と回答した学生が40.6%であり、本科目を受講した多くの学生にとって本科目は全体として把握し易い内容であったのだろう。さらに「やや分かりにくい」と「非常に分かりにくい」の回答合計は15.1%であった。学生にとって本科目の「全体的な内容」の理解とは、4人の担当教員の授業内容を独立した対象として理解しているレベルであるのか、相互に関連したものとして「総合的」に理解しているのか興味深い。

#### 5. 授業の内容は興味・関心の持てるものだったか（関心度）

「まあまあ持てる」というが52.5%、「非常に持てる」という回答が11.0%であった。「あまり持てない」と「ほとんど持てない」の回答合計は9.6%に過ぎなかった。この結果から本科目に対する学生の関心度は高いものであることが推察される。やはり、ここで取り出された“関心度”が授業全体を通じたものなのか、個々の授業に対するものなのかは興味深い。本科目で取上げられた「学び」「女性の自立」「自分らしさ」「共生」というテーマは学生にとって対象化し易いものであったのだろうと推察される。

## 6. 受講前と現在とで変わったと思うか（現在の自分への影響度）

「どちらともいえない」という回答が53.4%と最も多かった。「おおいに変わった」と「やや変わった」の回答合計が23.7%であったのに対して、「あまり変わらなかった」と「ほとんど変わらなかった」の回答合計が22.8%であった。〔変わった群〕と〔変わらなかった群〕がほぼ同数であったことから本科目が学生の現在の生き方に大きな影響を与えたとは即断できないものの4月から9月の短期間の授業を通じて自分が“変わった”あるいは“影響を受けた”といえる体験をした23.7%（52人）の学生の存在は本科目の意義の大きさを示しているのではないだろうか。

## 7.（設問6で「おおいにかわった」または「ややかわった」とした者に）どのように変わったと思うか（自由記述）

設問7は設問6で①おおいにかわった、②やや変わったと回答した学生に提示された自由記述項目である。その内容についていくつか上げてみる。

- ①【第1章～第4章までの内容は、とても興味があるもので、自分自身とてもそれぞれに対して強い思いがありました。それぞれに対する私の気持ちや思い、考え方というのは変わらなかったが、とてもそれぞれに対する知識が増えた。
- ②【第3章での「女性の自立」や「結婚」についての講義を受け、今までよりも結婚に対して様々なことを考えるようになった。こうでありたいという理想を持つようになった】
- ③【自分らしさの考え方が変わった。今までは自分らしさは個性だと考えていたが、本当の自分らしさとは、自分らしい生き方ができることだと分かった】
- ④【林先生の講義で、『自分らしさ』についてくわしく勉強できたので、とても私自身の『自分らしさ』について学べてよかった。『自分らしさ』は複雑に絡み合っている『らしさ』の集合体により自分になるということで、すごい私のためになりました。どんな私でも『私らしい』『自分らしい』と思えるようになりました】

上記①は本科目を通じて、過去の自己体験により形成された“私”に変化はないが、個々の授業を通じて新たな知識が付加されたという意見である。②は女性の自立や結婚について新たな理想を持つようになったという意見である。本科目の受講を通じて

これまでの“女性観”、“結婚観”に質的变化がもたらされたのだろうか？③④は“自分らしさ”のあり方について新たな発見をすることができたという意見である。これらは他者から同定された“個性”を“私”そのものと見なすこと、自分の断片的な行為や思考を拡大解釈して“私”と見なしてしまうあり方に対するアンチテーゼなのだろうか。本科目のテーマの1つである〔自分らしさ〕の本質に迫った貴重な意見である。

## 8. 将来を考える手掛りになったか（将来の自分への影響度）

「どちらともいえない」が56.6%を占めるものの「おおいになった」と「ややなった」の回答合計が32.0%であり「あまりならなかった」、「ほとんどならなかった」の回答合計10.5%を約3倍上回っている。本科目が学生の自分の将来（像）を形成する手がかりとして高く影響したと捉えていいだろう。

## 9.（問8で「おおいになった」または「ややなった」とした者に）手がかりになった内容はどんなことか（自由記述）

設問9は設問8で①おおいになった、②ややなったと回答した学生に提示された自由記述項目である。その内容についていくつか上げてみる。

- ①【第1章では好きな自分も嫌いな自分も受け止めて、自分らしく生きていこうと思いました。第2章では特になし。第3章ではもっともっと自立して、自分の強い意志を持ちながら女性としてしっかり生きていきたいと思った。第4章では保育士になるにあたって、さまざまな子どもや地域社会との共生を考えさせられました】
- ②【結婚することだけが幸せなことではなく、仕事をして独立した女性も認められつつあると知った】
- ③【保育者は、子どもの心理、気持ちを理解すること、保育所のあり方など社会的・地域的にも目を向けることの大切さも考えていける保育者になりたいとの思いが明確になりました】

上記3つの記述内容は非常に詳細であり“将来”の自分を具体的に想定した記述をしている。

全体的には〔結婚〕〔就職〕に関することが多い。本科目を受講した学生にとって“将来の自分”とはかなり明確な像として捉えられているのではないかと推察される。

10. この授業で学んだ内容で、今後さらに学んでいきたいと思った内容はあるか（今後の学びへの影響度）「どちらともいえない」との回答が52.5%で半数を超えている。しかし「ややある」が32.4%、「非常にある」が3.7%であり、両者の合計でみると約3割の学生にとって本科目が学びへの影響度に高く関与したと受け止めていると言えるだろう。

11.（設問10で「非常にある」または「ややある」とした者に）今後さらに学んでいきたい内容はどんなことか（自由記述）

設問11は設問10で①非常にある②ややあると回答した学生に提示された自由記述項目である。その内容についていくつか上げてみる。

- ①【自己分析などによって自分の良い部分や悪い部分を知る】
- ②【今の日本について学びたい。少子化などたくさん問題があるから、そのことについて学びたいです】
- ③【共生について...自然と人間、南北問題は今すぐにも問題を解決しなければならないと思いたい私たちにできることをもっと学びたい】
- ④【心理学をもっと詳しくやりたかった。特に、自分を分析して知ることや心の面から他人を理解することなどを学びたいです。】

上記①～④の記述内容から各担当教員の授業について〔南北問題〕〔共生〕〔女性の生き方・自立〕〔心理学〕とそれぞれの興味に応じて今後の学生生活で深く学んでいきたい内容について記述している。本科目において各教員は〔自分らしさ〕〔学び〕〔女性の生き方〕〔共生〕と明確なテーマを学生に提示し、そのことを学生もしっかり受け止めてくれたと推察したいところである。

## 12. 最後に（レポートにふれて）

本科目では、各担当教員の授業（3回）終了後に学生に対してレポートを提出することを課題としており、計4つのレポートの評価をもとに本科目の評価としている。各教員により若干の差異があるが、梅下担当の授業では①授業内容のまとめ②授業内容を基にした感想をレポートの課題としている。①については授業内容について要旨を踏まえ簡潔にまとめている学生が大多数である。また少数ながら授業で紹介した文献を参照してまとめている学生も存在する。②については、個々人の自己体験と授業内容を対照しつつ詳細に記述している学生が多い。本

科目のテーマは学生にとって切実な問題であると同時に今後の専門科目の入り口として受け止められていると考えられる。

## IV 主な項目間の関連について

### 1. 「自分らしく生きているかどうか」とその他の項目との関連

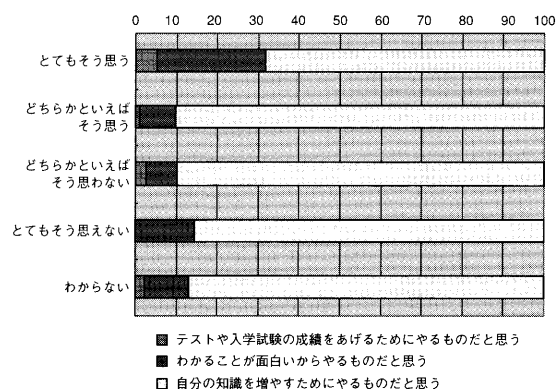
総合科目Aのテーマ『女性が自分らしく生きる』のキーワードのひとつである「自分らしく生きていると思うか」を軸に、受講前アンケートについて、他の項目とのクロス集計をした結果についてみてみる。

アンケートに回答した223人の学生は、「自分らしく生きていると思うか」に対して、「とてもそう思う」は19人、「どちらかといえばそう思う」は105人、「どちらかといえばそう思わない」は44人、「とてもそう思えない」は7人、「分からない」は48人であった。これらの回答群の傾向についてみてみたい。なお、図中の横軸の数字は%を表す。

#### (1) 「学ぶことの意味」について（図1）

どの群も「自分の知識を増やすためにやるものだと思う」と答えた割合が最も高いが、「分かることが面白いから」との差が最も小さい群は「とてもそう思う」群である。このことから、「とてもそう思う」群は他の群に比べて、内的な学ぶ動機が強いことを表している。一方、「とてもそう思えない」群も「分かることが面白いから」と回答した割合がやや高いが、この群は人数が少ないので比較考察することは難しい。

【図1】



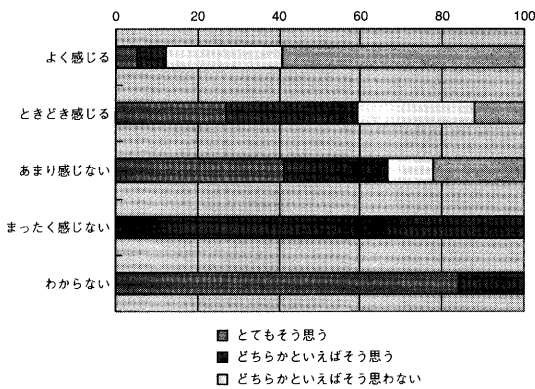
#### (2) 「現在の自分及び将来の不安」について（図2）

「とてもそう思う」群と「どちらかといえばそう思う」群は、「よく感じる」とした学生の割合が低い。「時々感じる」学生は多いが、「あまり感

じない」と回答した学生は「とてもそう思う」群と「どちらかといえばそう思う」群に高い傾向を示している。

このことから「自分らしく生きているという感じ」と「現在及び将来の不安」とはおおむね反比例しているといえよう。「自分らしく生きる」という自覚は現在及び将来の不安感を軽減させる結果になることもあることを示しているといえよう。

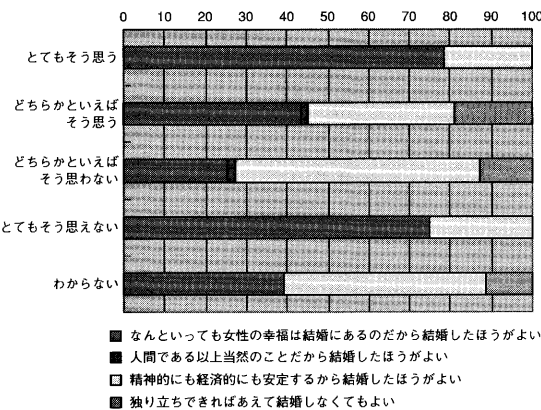
【図2】



(3) 「結婚」について (図3)

「とてもそう思う」群及び「どちらかといえばそう思う」群の中で最も割合が高いのは「なんといっても女性の幸福は結婚にあるのだから結婚したほうがよい」である。「どちらかといえばそう思わない」群では、「精神的にも経済的にも安定するから結婚したほうがよい」と回答した割合が高い。「分からない」群も同様の結果である。決定的ではないにしても「自分らしく生きていない」と思えたり、「自身の生き方について分からない」と感じている学生には結婚によって安定を得られるのではないかと、という期待が感じられる。「とてもそう思えない」群では「なんといっても女性の幸福は結婚にあるのだから結婚したほうがよい」とする学生が多いが、「分からない」とした学生の割合も高い。

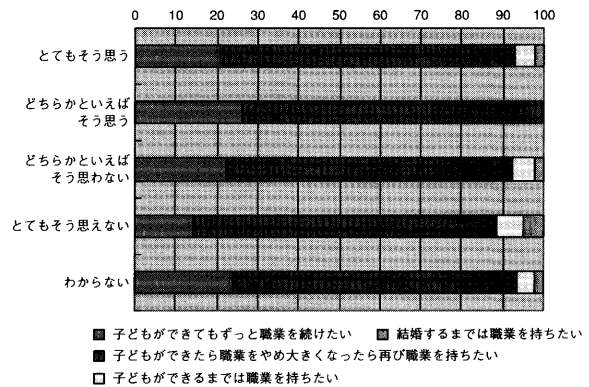
【図3】



(4) 「職業」について (図4)

すべての群において「子どもができれば職業をやめ大きくなったら再び職業をもちたい」と回答した学生の割合が高い。しいて言えば「とてもそう思えない」群が「子どもができては職業を続けたい」と答えた学生の割合が低い傾向にある。

【図4】



(5) 「女であることの不利又は有利」について (図5)

「とてもそう思う」群で一位を示すのは「有利でも不利でもない」である。「多少は有利である」も他の群に比べると高い。「どちらかといえばそう思う」群では「多少は不利」とする学生の割合と「有利でも不利でもない」とした学生の割合が同程度である。「とてもそう思えない」群では「多少不利」と「とても有利」が同程度の高さであった。

「とてもそう思う」群の学生は、女性であることをある程度積極的に感じているのかもしれない。さらに、「どちらかといえばそう思わない」群は「とても不利」が他の群より高く、「多少は不利」も他の群より低いとは言えない。ここからも、「自分らしく生きる」と「女性という存在についての感じ方」が関連しているように思える。「分からない」群では「多少は不利」とする学生が他の群に比べてやや高い傾向にある。

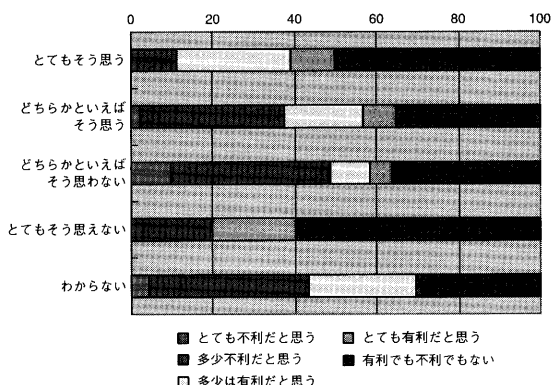
「自分らしく生きる」ことができれば、女性であることを不利と感ずることも少なく「有利でも不利でもない」と客観的にみることができている学生が多い、といえるかもしれないし、逆に女性であることを不利と感ずらなかつたり「有利でも不利でもない」と感ずることが出来る学生は「自分らしく生きている」と感ずることも相対的に多いといえるのかもしれない。

「有利」「不利」の内実としてどのような体験や



思考があったのかが不明であるので、考察を深めることはできないが、興味深い結果である。

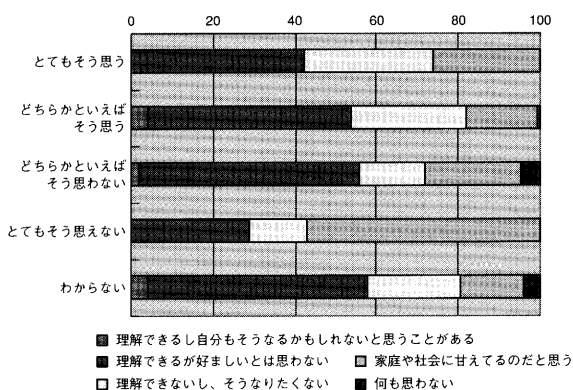
【図5】



(6) 「ニート」について (図6)

「どちらかといえばそう思わない」群及び「分からない」群の半数以上が「理解できるが好ましいとは思わない」と回答している。「とても思えない」群で最も割合が高かったのは「家庭や社会に甘えている」であった。「とても思う」群と「どちらかといえば思う」群では30%前後の学生が「理解できないしそうなりたくない」と回答している。また、「どちらかといえば思う」群と「分からない」群がよく似た傾向を示しているのは興味深い、その要因については不明である。

【図6】

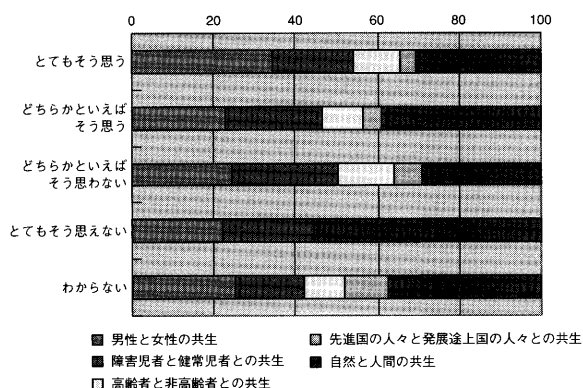


(7) 「共生」について (図7)

「とても思う」群で回答した割合が最も高かったのは「男性と女性の共生」であった。「自然と人間の共生」が、他の4群で最も高い割合となっていることを考え合わせると興味深い。「どちらかといえば思う」群と「どちらかといえば思わない」群及び「とても思えない」群では、「男性と女性の共生」と「障害児者と健

常児者の共生」が同程度に高い。

【図7】



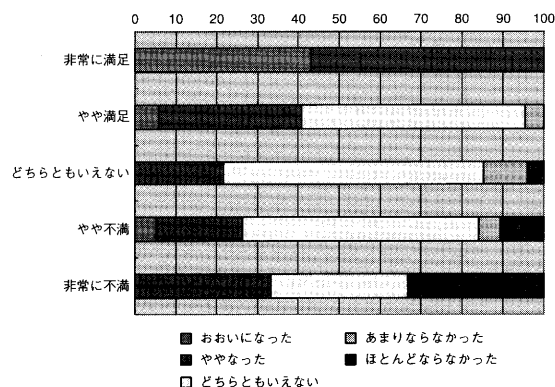
2. 授業に対する満足度と他の項目との関連

受講後アンケートについて、授業に対する全体的満足度を軸に若干の傾向をみてみたい。「非常に満足」とした学生は3.2% (7人)、「やや満足」とした学生は39.3% (86人)「どちらともいえない」とした学生は47% (103人)、「やや不満」とした学生は9.1% (20人)、「非常に不満」とした学生は1.4% (3人)であった。

(1) 自分の将来を考える手がかり (図8)

「非常に満足」とした学生のすべてが、総合科目Aが自分の将来を考えるための手がかりに「おおいに」または「やや」なったと回答している。「非常に不満」とした学生のうち3分の1が「ほとんどならなかった」と回答している。どのような点が「手がかり」であったのか興味深い、一方で、満足度が低い学生については、今後、その要因を探る必要がある。総合科目の目的を考えると満足度を上げる工夫が必要不可欠である。

【図8】



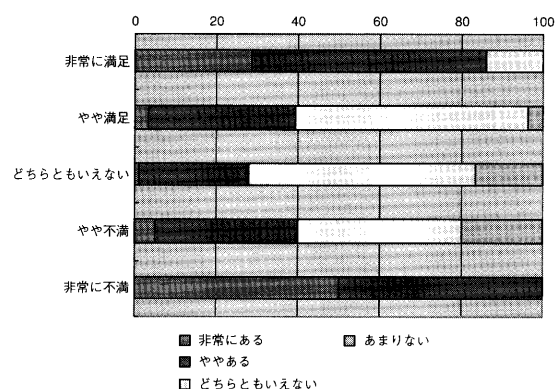
(2) 今後の学びへの影響 (図9)

「非常に満足」とした学生の多くが、今後の学

びへの影響について「非常に」「やや」と回答していることは理解しやすいが、「非常に不満」とした学生のほとんどが「非常に」又は「やや」と回答しているのは興味深い。(1人は「ほとんどない」と回答)

「どちらともいえない」と回答した学生も「やや不満」と回答した学生も、3～4割の割合で総合科目Aが、今後の学びへの影響があったと回答している。全体的に不満と感じたとしても、今後の学びに何がしかの影響を与えたことは、注目に値する。

【図9】



## V 受講の前後における受講学生の意識の変化とその評価

### 1. 現在の自分への影響度

この教科の「現在の自分への影響度」は、23.7% (52名) が「ある」ということであった。この数字をどうすべきかが問題である。この数字は全体の4分の1弱程度であるに過ぎず、大きな数字ではない。しかし我々は、短期間の授業を受けた結果の学生自身によるこの反応を、本教科の存在意義の大きさを示すものと考えた。というのもこの数字は、設問は「あなたはこの授業によって受講前と現在とで変わったと見ますか？」という設問への回答であり、「大いに変わった」と「やや変わった」の合計を表しているのであるから。

確かに設問もそれへの回答も、これ以上に進んではない。したがってどのように変わったのか、どの程度変わったのかは定かではない。しかし、若い女性(学生自身)の、お仕着せではない自分らしい生き方を考えることを狙いとする教科でのこの回答である。学生の4分の1弱の者が、受講することによって、その生き方をお仕着せではない自分らしいものへと変えた、と答えたことの意義は大きいとす

ることは、過大評価とはいえない。この意味で、この数字は、この教科の彼女たちの生き方全体の中での存在意義の大きさを表すものと考えたいのである。

### 2. 将来の自分への影響度

32.0%という数字は、「この教科の内容は、あなたの将来を考える手がかりになりましたか？」という設問に対する、「大いになった」「ややなった」の合計である。この数字は、「現在の自分への影響度」よりやや高くなっている。しかしここでも前項同様、わずか3分の1というより、3分の1もの学生たちが、受講によって自分の「将来を考える手がかりになった」と答えていることの意義の大きさを、高く評価したいのである。というのも、この数字は、若い女性の自分らしい生き方を考えることを狙いとする教科の授業を受けての結果を表すものであるから。したがって、ここで言う「将来の自分」とは、お仕着せではない自分らしい生き方をしようと考えている自分であるとみてよからうと思う。

### 3. クロス集計結果

受講後アンケートの①「全体的満足度」と「現在の自分への影響度」クロス、②「全体的満足度」と「自分の将来への影響度」クロス③「全体的満足度」と「今後の学びへの影響度」クロスを見てみる。

「全体的満足度」は、「非常に満足」7名、3.2%；「やや満足」86名、39.3%；「どちらともいえない」103名、47%；「やや不満」20名、9.1%；「非常に不満」3名、1.4%である。

#### ①について

「非常に満足」「やや満足」の合計93名のうち、「大いに変わった」「やや変わった」の合計35名は、37.6%である。つまり授業への満足度の高いものが、「現在の自分への影響度」をより高く認めている。

#### ②について

前項同様、合計93名のうち、自分の将来を考える手がかりに「大いになった」「ややなった」の合計42名は、45.2%である。ここでも、授業の満足度の高い者が「自分の将来への影響度」を高く認めている。

#### ③について

ここでも、前2項同様、合計93名のうち、「今後の学びへの影響度」(設問「この授業で学んだ内容で、今後さらに学んで生きたいと思った内容

はありますか？」への回答)で、「非常にある」「ややある」の合計40名は、43.0%である。つまりここでも、授業の満足度の高い者が、「今後の学びへの影響度」を高く認めている。

生きるために』の第二年度報告」岡崎女子短期大学研究紀要第30号(1996年)

『『総合科目』の『総合』の意味を考える』岡崎女子短期大学研究紀要第31号(1997年)

## Ⅵ 今後の課題

### 1. 今回の調査・研究報告の限界

今回の調査研究は、授業環境の急変でしばらく中断していた「総合科目A」についての教授学的調査・研究の、新体制での再開実践報告第1回である。したがって、中断以前までとの連続性の検討、アンケート結果のより詳細なクロス集計結果の分析・考察等は、今後の課題として残されている。とりあえずは、新体制での授業実践についての授業学的分析・考察が再開されたということである。

### 2. 分担等

分担は、第2章受講前アンケートの分析・考察を加藤佳子、第3章受講後アンケートの分析・考察を梅下弘樹、第4章のクロス集計を林陽子、それ以外の全体に関するものを岩淵剛が、全体の文体・レイアウト等の統一・調整を林陽子が担当した。

## 【注】

注1 この授業は、13年前〔1992年〕から、志を同じくする6名の教員で、主として現代女子学生を中心とした研究会を作り、女性の生き方と本学学生の現状と問題点を学びあった。その結果、新しい教科「総合科目」をつくり、本学入学直後の段階の幼児教育学科の学生に、お仕着せではない「自分らしい」生き方を考えさせることになった。そのため担当予定教員6名で、そのテキストにもなる『現代に生きる女性—自分探しのたびに出よう』(愛智出版)を共同執筆し、1995年から開始することになった。

注2 授業実践に関する我々の教授学的調査・研究については、以下の文献参照。「保育者養成系女子短期大学における総合科目の現状と課題—総合科目『女性が自分らしく生きるために』の初年度報告」岡崎女子短期大学研究紀要第29号(1995年)

「保育者養成系女子短期大学における総合科目の現状と課題—総合科目『女性が自分らしく

【参考資料1】 受講前アンケート

2005年度 『総合科目A』 受講前アンケート

クラス ( )

1. あなたが岡崎女子短大に入学したのも強い動機は何ですか。一つだけ選んでください。

- (1) 親や先生に勧められたから (2) みんなが大学に行くから (3) もっと勉強したいから  
 (4) 資格を取得したいから (5) 学生生活を楽しみたいから (6) 自分の可能性を見つけ伸ばしたいから (7) 学歴をつけたいから (8) 高校卒業後すぐには就職したくなかったから (9) 特に動機はない (10) その他 ( )

2. あなたは『学ぶこと』の意味をどのように考えていますか。一つだけ選んでください。

- (1) 親や先生に言われてしかたなくやるものだと思う (2) テストや入学試験の成績をあげるためにやるものだと思う (3) わかることが面白いからやるものだと思う (4) 自分の知識を増やすためにやるものだと思う (5) 『学ぶこと』にあまり意味はないと思う (6) 分からない (7) その他 ( )

3. あなたは今「自分らしく生きていますか。」と思いますか。一つだけ選んでください。

- (1) とてもそう思う (2) どちらからかといえそうですが思う (3) どちらからかといえませんが思う (4) とてもそう思えない (5) 分からない (6) 分からない

4. あなたは自分の将来について不安を感じることがありますか。一つだけ選んでください。

- (1) よく感じる (2) 時々感じる (3) あまり感じない (4) まったく感じない (5) 分からない

5. あなたは結婚についてどう考えていますか。一つだけ選んでください。

- (1) なんといいっても女性の幸福は結婚にあるのだから結婚したほうがよい (2) 人間である以上当然のことだから結婚したほうがよい (3) 精神的にも経済的にも安定するから結婚したほうがよい (4) 結婚は女性の自由を束縛するから一生結婚しないほうがよい (5) 独り立ちできればあえて結婚しなくてもよい (6) 分からない (7) その他 ( )

6. あなたは職業についてどう考えていますか。一つだけ選んでください。

- (1) 子どもができてみずつと職業を続けたい (2) 子どもができてきたら職業をやめ、子どもが大きくなったから再び職業を持ちたい (3) 子どもができてくるまでは職業をもちたい (4) 結婚するまでは職業を持ちたい (5) 職業を持ちたくない (6) 分からない (7) その他 ( )

7. あなたは「女である」ことが「男である」ことより不利であると感じたことがありますか。あるいは有利であると感じたことがありますか。一つだけ選んでください。

- (1) 「女である」ことはとて不利だと思う (2) 「女であること」は多少は不利だと思う (3) 「女であること」は多少は有利だと思う (4) 「女であること」はとて有利だと思う (5) 「女であること」は不利でも有利でもない (6) 分からない

8. 最近「ニート」(大人になっても学校にも行かず職業にもつかず、また学校に行こうとか仕事をしようとも思わない人たち)という言葉をよく聞きますが、このことについてどう思いますか。一つだけ選んでください。

- (1) 気持ちは理解できるし、自分もそうなるかもしれないと思うことがある (2) 気持ちは理解できるが、好ましいこととは思わない (3) どうしてそうなのか理解できないし、自分はそうなりたくない (4) そのような人は家庭や社会に甘えているのだと思う (5) 何も思わない (6) 意味がよく分からない

9. あなたは次の「共生」について知っていますか。知っているものがあればいくつでも選んでください。

- (1) 男性と女性の共生 (2) 障害児者と健全児者との共生 (3) 高齢者と非高齢者との共生  
 (4) 先進国の人々と発展途上国の人々との共生 (5) 自然と人間の共生  
 (6) その他 ( )

10. あなたが『総合科目A』を選択した理由はなんですか。あてはまるものを3つ選んでください。

- (1) 「授業内容」を読んで内容に興味を感じたから (2) オリエンテーションを聞いて授業を受けてみたいと思ったから (3) テーマ「女性が自分らしく生きるために」に興味を感じたから (4) 先輩の話を聞いて興味を感じたから (5) 高校までにはない科目だったから (6) 複数の先生が担当する授業に興味を感じたから (7) 時間割上都合が良かったから (8) 友達に誘われたから (9) 単位数確保のため (10) 何となく (11) その他 ( )

11. この科目に望むことがあれば自由に書いてください。

【参考資料2】 受講後アンケート

2005年度「総合科目A」受講後アンケート

このアンケートは、「総合科目A」の授業の内容や進め方などについて、みなさんがどのように評価しているかを把握し、今後の授業編成に役立てようとする目的で実施します。無記名ですので率直に答えてください。

1, (選択理由) あなたが「総合科目A」を選択した理由を教えてください。(一つだけ選んでください。また、当てはまるものがない場合は「⑥その他」の欄に記入してください。)

- ①なんとなく ②友人が選択したから ③テーマに興味・関心があったから ④単位数を満たすため ⑤一つのテーマに沿って複数の教員が解説するから ⑥その他( )

2, (出席状況) この授業へのあなたの出席状況を教えてください。

- ①すべて出席 ②1～2回欠席 ③3～4回欠席 ④5回以上欠席

3, (全体的満足度) 全体的にみてこの授業にあなたはどの程度満足していますか？

- ①非常に満足 ②やや満足 ③どちらとも言えない ④やや不満 ⑤非常に不満

4, (全体的な内容のわかり易さ) この授業の内容は、あなたにとって分かり易いものでしたか？

- ①非常に分かり易い ②まあまあ分かり易い ③どちらとも言えない ④やや分かりにくい ⑤非常に分かりにくい

5, (関心度) この授業の内容は、あなたにとって興味・関心の持てるものでしたか？

- ①非常に持てる ②やや持てる ③どちらとも言えない ④あまり持てない ⑤ほとんど持てない

6, (現在の自分への影響度) この授業によって、あなたは受講前と現在とで変わったと思いますか？

- ①おおいに変わった ②やや変わった ③どちらとも言えない ④あまり変わらなかった ⑤ほとんど変わらなかった

7, 設問6で①または②と答えた方にお尋ねします。どのように変わりましたか？自由にお書いてください。

8, (自分の将来への影響度) この授業の内容は、あなたの将来を考える手掛りになりましたか？

- ①おおいになった ②ややなった ③どちらとも言えない ④あまりならなかった ⑤ほとんどなかった

9, 設問8で①または②と答えた方にお尋ねします。手掛りになった内容はどんなことでしたか？自由にお書いてください。

10, (今後の学びへの影響度) この授業で学んだ内容で、今後さらに学んでいきたいと思っ内容はありますか？

- ①非常にある ②ややある ③どちらとも言えない ④あまりない ⑤ほとんどない

11, 設問10で①または②と答えた方にお尋ねします。今後さらに学んでいきたい内容はどんなことですか？自由にお書いてください。

9, 最後にあなたの所属するクラスを教えてください

クラス

ご協力ありがとうございました。

**【参考資料 3】**

Q1 あなたが大学に入学したもっとも強い動機は何ですか

	Q1-1	Q1-2	Q1-3	Q1-4	Q1-5	Q1-6	Q1-7	Q1-8
全体	親や先生に勧められたから	みんなが大学に行くから	もっと勉強したいから	資格を取得したいから	生活を楽しみたいから	自分の可能性を見つけ伸ばしたいから	学歴をつけたいから	校卒業後すぐには就職したくなかったから
223	7	2	3	161	19	11	0	2
100.0	3.1	0.9	1.3	72.2	8.5	4.9	0.0	0.9
	Q1-9	Q1-10	Q1-11					
	特に動機はない	その他	不明					
	1	15	2					
	0.4	6.7	0.9					

Q2 あなたは「学ぶこと」の意味をどのように考えていますか

	Q2-1	Q2-2	Q2-3	Q2-4	Q2-5	Q2-6	Q2-7	Q2-8
全体	親や先生に言われてしかたなくやるものだと思う	テストや入学試験の成績をあげるためにやるものだと思う	わかることが面白いからやるものだと思う	自分の知識を増やすためにやるものだと思う	「学ぶこと」にあまり意味はないと思う	分からない	その他	不明
223	0	4	23	187	0	4	3	2
100.0	0.0	1.8	10.3	83.9	0.0	1.8	1.3	0.9

Q3 あなたは今「自分らしく生きている」と思いますか

	Q3-1	Q3-2	Q3-3	Q3-4	Q3-5	Q3-6
全体	とてもそう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	とてもそう思えない	分からない	不明
223	19	105	44	7	48	0
100.0	8.5	47.1	19.7	3.1	21.5	0.0

Q4 あなたは現在の自分および将来について不安を感じることがありますか

	Q4-1	Q4-2	Q4-3	Q4-4	Q4-5	Q4-6
全体	よく感じる	時々感じる	あまり感じない	まったく感じない	分からない	不明
223	34	155	30	1	2	1
100.0	15.2	69.5	13.5	0.4	0.9	0.4

Q5 あなたは結婚についてどう考えていますか

	Q5-1	Q5-2	Q5-3	Q5-4	Q5-5	Q5-6	Q5-7	Q5-8
全体	なんといっても女性の幸福は結婚にあるのだから結婚したほうがよい	人間である以上当然のことだから結婚したほうがよい	精神的にも経済的にも安定するから結婚したほうがよい	結婚は女性の自由を束縛するから一生結婚しないほうがよい	独り立ちできればあえて結婚しなくてもよい	分からない	その他	不明
223	74	3	72	0	24	25	24	1
100.0	33.2	1.3	32.3	0.0	10.8	11.2	10.8	0.4

Q6 あなたは職業についてどう考えていますか

	Q6-1	Q6-2	Q6-3	Q6-4	Q6-5	Q6-6	Q6-7	Q6-8
全体	子どもができてもずっと職業を続けたい	子どもができたら職業をやめ大きくなったら再び職業を持ちたい	子どもができるまでは職業を持ちたい	結婚するまでは職業を持ちたい	職業を持ちたくない	分からない	その他	不明
223	45	156	11	5	0	6	0	0
100.0	20.2	70.0	4.9	2.2	0.0	2.7	0.0	0.0

Q7 あなたは「女である」ことが「男である」ことより不利であると感じたことがありますか

	Q7-1	Q7-2	Q7-3	Q7-4	Q7-5	Q7-6	Q7-7
全体	とても不利だと思う	多少不利だと思う	多少は有利だと思う	とても有利だと思う	有利でも不利でもない	分からない	不明
223	8	72	40	13	76	13	1
100.0	3.6	32.3	17.9	5.8	34.1	5.8	0.4

Q8 ニートについてどう思いますか

	Q8-1	Q8-2	Q8-3	Q8-4	Q8-5	Q8-6	Q8-7
全体	理解できるし自分もそうなるかもしれないと思うことがある	理解できるが好ましいとは思わない	理解できないし、そうなりたくない	家庭や社会に甘えてるのだと思う	何も思わない	意味がよく分からない	不明
223	7	110	54	44	5	0	3
100.0	3.1	49.3	24.2	19.7	2.2	0.0	1.3

Q9 あなたは次の「共生」について知っていますか

	Q9-1	Q9-2	Q9-3	Q9-4	Q9-5	Q9-6	Q9-7
全体	男性と女性の共生	障害児者と健常者との共生	高齢者と非高齢者との共生	先進国の人々と発展途上国の人々との共生	自然と人間の共生	その他	不明
223	78	69	34	19	115	7	56
169.5	35.0	30.9	15.2	8.5	51.6	3.1	25.1

Q10 あなたが「総合科目」を選択した理由はなんですか

	Q10-1	Q10-2	Q10-3	Q10-4	Q10-5	Q10-6	Q10-7	Q10-8
全体	授業内容を読んで内容に興味を感じたから	オリエンテーションを聞いて授業を受けてみたいと思ったから	テーマ「女性が自分らしく生きるために」に興味を感じたから	先輩の話聞いて興味を感じたから	高校までにはない科目だったから	複数の先生が担当する授業に興味を感じたから	時間割場都合が良かったから	友達に誘われたから
223	103	8	102	6	64	14	34	35
250.2	46.2	3.6	45.7	2.7	28.7	6.3	15.2	15.7
	Q10-9	Q10-10	Q10-11	Q10-11				
	単位数確保のため	何となく	その他	不明				
	136	50	5	1				
	61.0	22.4	2.2	0.4				

【参考資料4】

Q1 選択理由

	Q1-1	Q1-2	Q1-3	Q1-4	Q1-5	Q1-6	Q1-7
全 体	なんとなく	友人が選択したから	テーマに興味・関心があったから	単位数を満たすため一つのテーマに沿って複数の教員が解説するから	有利でも不利でもない	その他	不 明
219	30	14	48	121	3	2	1
100.0	13.7	6.4	21.9	55.3	1.4	0.9	0.5

Q2 出席状況

	Q2-1	Q2-2	Q2-3	Q2-4	Q2-5
全 体	すべて出席	1～2回欠席	3～4回欠席	5回以上欠席	不 明
219	170	39	1	9	0
100.0	77.6	17.8	0.5	4.1	0.0

Q3 全体的満足度

	Q3-1	Q3-2	Q3-3	Q3-4	Q3-5	Q3-6
全 体	非常に満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	非常に不満	不 明
219	7	86	103	20	3	0
100.0	3.2	39.3	47.0	9.1	1.4	0.0

Q4 全体的な内容の分かり易さ

	Q4-1	Q4-2	Q4-3	Q4-4	Q4-5	Q4-6
全 体	非常に分かり易い	まあまあ分かり易い	どちらともいえない	やや分かりにくい	非常に分かりにくい	不 明
219	1	89	96	32	1	0
100.0	0.5	40.6	43.8	14.6	0.5	0.0

Q5 関心度

	Q5-1	Q5-2	Q5-3	Q5-4	Q5-5	Q5-6
全 体	非常に持てる	まあまあ持てる	どちらともいえない	あまり持てない	ほとんど持てない	不 明
219	24	115	58	20	1	1
100.0	11.0	52.5	26.5	9.1	0.5	0.5

Q6 現在の自分への影響度

	Q6-1	Q6-2	Q6-3	Q6-4	Q6-5	Q6-6
全 体	おおいに変わった	やや変わった	どちらともいえない	あまり変わらなかった	ほとんど変わらなかった	不 明
219	4	48	117	35	15	0
100.0	1.8	21.9	53.4	16.0	6.8	0.0

Q8 自分の将来への影響度

	Q8-1	Q8-2	Q8-3	Q8-4	Q8-5	Q8-6
全 体	おおいになった	ややなった	どちらともいえない	あまりならなかった	ほとんどならなかった	不 明
219	9	61	124	16	7	2
100.0	4.1	27.9	56.6	7.3	3.2	0.9

Q10 今後の学びへの影響度

	Q10-1	Q10-2	Q10-3	Q10-4	Q10-5	Q10-6
全 体	非常にある	ややある	どちらともいえない	あまりない	ほとんどない	不 明
219	8	71	115	24	1	0
100.0	3.7	32.4	52.5	11.0	0.5	0.0